

予 算 要 求 資 料

令和8年度9月補正予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 現代陶芸美術館美術品等収集費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

現代陶芸美術館 総務部 管理調整係 電話番号：0572-28-3100 (内103)

E-mail：c21802@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 5,450 千円 (現計予算額： 1,150 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	1,150	0	0	0	0	0	0	0	1,150
補 正 要求額	5,450	0	0	0	0	5,450	0	0	0
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・当館は、全国一の陶磁器産地である地元地域と連携して、地域文化の振興・発展を図ることを目的としている。この目的のために、近現代における日本と世界の、芸術的価値の高い陶磁器作品を収集し、調査研究のうえ、展示公開する。
- ・地場産業の活性化(新たな生活文化の提案、新しい産業デザインの発見、個性的な商品の開発)につながるように、近現代の産業陶磁器も地元で紹介するとともに、広く県民に陶磁器の産業と文化を紹介していく。
- ・美術品等収集費は平成21～24年度に休止され、平成25年度から再度措置されるようになったが、休止前の額とほぼ同等の1,570万円が上限となっている。
- ・日本の近現代陶芸史を俯瞰できるコレクションを目指し、地元関係で活躍中の作家を重点的な収集対象としているが、この目標にはまだまだ達しておらず、この点でもコレクションの充実が課題である。

(2) 事業内容

- 現代陶芸美術館の収集方針に基づき収集
- ・収集方針「近現代における日本と世界の陶磁器」
 - a. 個人作家の陶芸 b. 実用陶磁器 c. 産業陶磁器を収集の3本柱として収集候補作品を選定する。
- ・候補作品(購入・寄贈・寄託)は、美術品等収集委員会に提出し、委員から聴取した意見に基づき、受け入れを進める。

(3) 県負担・補助率の考え方

現代陶芸美術館の美術品等の収集に要する経費であり妥当
財源に寄附金を活用

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
備品購入費	5,450	美術品収集費
合計	5,450	

決定額の考え方

--

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・本事業費が継続的に措置されることにより、収集計画を立て、収集候補作品について情報収集や調査を進めることができる。
- ・令和8年度も、当館の収集方針に基づいて作品を購入し、当館のコレクションを充実させていく。
- ・この収集活動の成果を、コレクション展等で活用し、日本と世界の現代陶芸を県民等に紹介し、地域の陶磁器産業振興に資することを目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 実績	終期目標 (R8)	達成率
入場者数		32,277	86,605	31,609	35,700	89%

* 令和6年度の入館者数は、3年に1度の「国際陶磁器フェスティバル美濃」が開催され、例年より多い。

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和5年度	○取組内容 ・収集方針に基づいて購入作品を絞り込む。美術品等収集委員会を開催し、選定作品について意見聴取。美術品収集費800万円の範囲で作品を購入。 ・常に購入候補作品について情報収集と調査を行い、購入の優先順位を検討して、次年度以降の計画を立てている。 ○成果 ・当予算により作品を購入することで、当館のコレクションを充実させ、より多角的な展示活用が可能となった。 ・この展示事業により、県民へ陶芸文化の紹介を充実させた。
令和6年度	○取組内容 ・美術品収集費800万円の範囲で作品を購入。それ以外は同上。 ○成果 ・基本は前年同様 指標① 目標：35,700 実績：86,605 達成率：243%
令和7年度	○取組内容 ・美術品収集費12,105万円の範囲で作品を購入。それ以外は同上。 ○成果 ・基本は前年同様。 指標① 目標：35,700 実績：31,609 達成率：89%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 2	・当館のコレクションを充実させることで、より魅力的な展示活用を多角的に展開できる。 ・このような展示事業により、県民への陶芸文化の紹介を充実させ、地域の陶磁器産業の活性化に資することができる。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 1	・令和5年度および6年度は、美術品収集費が800万円に縮小となり、購入候補作品を以前より厳選することとなった。令和7年度は収集費が12,105千円になったが、以前の水準に達しておらず、作品選定状況はまだ厳しい。 ・一定の収集費を確保することで、購入候補作品を断念したり、先送りするケースを減らすことができる。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	・常に購入候補作品について、価格の適正さを検討し、購入のタイミングと予算の範囲を考慮して、購入作品の組み合わせを考えている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・一定の収集費が確保できないと、購入候補作品を断念したり、先送りするケースが生じる。こうしたケースは、購入先との関係（信頼関係等）に影響し、今後の作品収集活動に対してマイナスに働く可能性もある。 ・適度な収集費を確保することで、作品収集活動をより良いサイクルにすることができる。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ・当館が建つ土地は、長い美濃焼の歴史を持ち、現在も県の重要な地場産業の地であり、現代陶芸の発信地となっている。当館がコレクションによって陶芸文化を県民に紹介することは、県民のニーズがあり、県民から評価されており、今後も一層充実した展開が必要である。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】